

看護闘争ニュース

NO. 146

2008年11月25日

愛知県医労連 県交渉で「看護職員需給見直しを見直す」 県知事署名取り組み中

9月8日に提出した「2009年度予算策定にあたっての医師・看護職員の確保に関する要求」に基づいて県交渉を11月21日に行いました。

県は、医務国保課看護対策グループから主幹・課長補佐・主査が、医療対策グループから主査の4名が出席。

交渉の重点要求は、(1)第6次・愛知県看護職員需給見直し(2005年12月策定)を抜本的に見直しさせ、予算増を含めた愛知県内・看護師10万人体制の大幅増員計画を作らせること。(2)医師不足解消のため愛知県が確保のために具体的な施策と必要な予算増を講じさせ、必要な地域に医師を確保させること。(3)公立病院ガイドラインの押しつけはさせず、地域の公立・公的な医療機関の存続と発展の施策を講じさせること、の3点でした。

看護課題の回答では、「看護職員需給見直しの抜本見直し」要求に対し、「現在、看護職員需給見直しの



『中間・検証』を実施中で調査結果をまとめて、看護職員の需要・供給状況を修正し、2008年度内(09年3月末まで)に公表する」との表明を引き出しました。

7対1看護取得で増加した看護師の需要増加分(=不足数)を調査で明らかにし、看護職員不足分を補う供給増に計画修正=増員で見直しすることを意味するものであり極めて重要な成果になりました。(=現在の第6次見直し 2010年までに1万人程増員し、愛知県内・看護師増数を、6万6000人とする計画です)

県医労連では「看護師10万人体制」を求めて、県知事あて署名に取り組み中です。

岡山医療生協労働組合

夜勤協定を超えると1回につき3,000円の夜勤手当支給

岡山協立病院ではこの間、月9日以内の夜勤協定違反が常態化しています。2008年11月の夜勤実態では、夜勤要員130人中、81人が10回以上の夜勤を実施しています。

協定違反の金銭解決を容認するものではありませんが、これまでの協定違反に対するペナルティーとして、また今後の協定遵守の強制力として夜勤手当の増額を要求し、2008年秋年末闘争で一部実現しました。内容は「夜勤回数が協定回数(月9日)を超えた場合、超えた分について夜勤手当を増額(1回につき3,000円)、09年3月までの暫定措置」です。

2008年9月の単組定期大会で看護師が新執行委員長へと就任したことも、この要求が実現したことの大きな要因と思われます。

岡山医療生協労働組合 書記長 森本忠春



さいたま市職員組合

5万枚のチラシで看護師確保 閉鎖病棟が復活

看護師不足で病棟閉鎖

同病院は看護師不足から昨年10月、内科の1病棟を閉鎖。埼玉県医労連は、さいたま市職員組合(医労連オプ加盟)から「看護師を確保するために、何か良いアイデアはないか」と昨年末より相談を受けました。看護師が興味を持つような広報以外の募集方法の相談です。タウン誌、フリーパーパー、組合でチラシをつくり配布する方法などをアドバイスし、最終的には労組が得意とする地域での全戸配布、地区労などの支援を得るなど運動の進め方をアドバイスしました。市との交渉では、採用年齢の引き上げ(50歳まで)や臨時職員の賃上げ、院内保育所の充実などを実現しました。

組合がカンパで「看護師募集」チラシ作成

しかし、肝心の看護師募集について、市当局は「募集費用がない」とお手上げ状態。病院分会から「自分たちでチラシをつくって看護師を募集しよう」との声があがり、組合としてチラシをカンパで作成。市当局の幹部もカンパを寄せました。チラシで「看護師が足りません。地域医療を守るため、あなたの力を貸してください」と、看護師や病院スタッフ、院内の写真もふんだんに盛り込み、同病院が地域医療で果たしている役割を紹介し、「自治体病院の役割はますます重要」とも訴えました。院内での撮影には病院側も協力。

50人こえて採用 閉鎖病棟復活!

今年2~3月、駅頭宣伝や、地域の労組・市民団体の協力も得ながらの戸別配布を実施、反応は予想以上でした。病院には3月中旬ごろから問い合わせの電話が相次ぎ、病院側も驚きました。この結果、現在までに臨時職員を含め50人以上の看護師が採用され、7月に閉鎖されていた内科病棟が再開され、病院側も「組合のチラシのおかげ」と語っています。

市議会が決議を採択

組合の取り組みは市議会も動かしました。7月議会の保健福祉常任委員会に同病院の看護師らが招かれ、医師・看護師不足問題を発言。9月議会では、市立病院の医師・看護師の「さらなる人材確保への対策を求める」との決議が採択されました。職員組合はよりよい看護と働き続けられる職場をめざし、今後も看護師の労働条件改善を重要な課題にしていきたいと決意を語っています。

看護人材確保で大臣直属の検討会

舛添厚生労働大臣

舛添厚労相は、19日の衆議院厚生労働委員会で、看護師の人材確保に向けて大臣直属の検討会を立ち上げる方針を明らかにした。

民主党の長妻昭議員の「看護師さんが、現在84万人おられますが、私はこれを100万人以上にすべきだと思っていますが、大臣のご意見を伺いたい」の質問に答えたもの。

大臣は、「墨東病院を視察しまして、NICUが15あるのに12しか稼働していない。原因は看護師の不足であります。私も非常に深刻に思っています。それで、来週にも、看護師の方についても私のもとに検討会を立ち上げて、委員、今一番の問題は、3年の研修をして就職しようと思っても、医療水準が高すぎて、入ったはいいけれども、ああ、私の技量では看護師は勤められないよという、新卒で辞めていかれる方がたくさんおられる。それから、資格を持っているのに、いろいろな事情でその資格を生かせないで休眠状態にある方がいる。こういう方々を掘り起こし、そしてきちんと就職していただくことによって、100万人という計画も達成できると思いますので、早急に、年末ぐらいにかけて、大急ぎでその提言をまとめたいと思っています」と答えた。

厚労省では、検討会の調整を現在行っているとのこと。